

3.2. 授業活動別 Can-do リスト 2021

3.2.1. 目的

前述の通り、授業活動別 Can-do リスト作成の目的は、A レベルを示す「学部の授業受講に支障のないレベル」を具現化・可視化することで、A レベルの学生にとっては、到達可能域として、B・C レベルの学生にとっては到達目標を具体的に示す指針ともなる。

本報告で具体的に想定する授業科目である「国際共修入門」とは、2021 年度に新規開講した科目で、留学生が多く在籍する経営学部の1年生全員が履修する。国際共修の促進を推奨する本学において、今後の4年間で国際共修という学びのスタイルを当たり前の状態とするための入門的な位置づけで、国際共修科目体系上の目標は「国際共修を学ぶ」である。 「国際共修入門」には、「セミナー型」「講義・セミナー型」「講義型」の3種類があり、1学年300人程度の新入生を希望（日本人学生）と日本語能力（留学生）により、3つのタイプに振り分け、クラスを指定する。2021年度は、「セミナー型」が2クラス、「講義・セミナー型」が4クラス、「講義型」が1クラスであった。

本報告書では、この授業に参加するために必要な行動を、留学生の視点から、やりとりの方向性（一方向的か、双方向的か）、観察可能な形で従事している行動（聞く、話す）のマトリックスで整理し、活動領域ごとに「説明・指示の理解」「発表」「ペアワーク・グループワーク」とした。

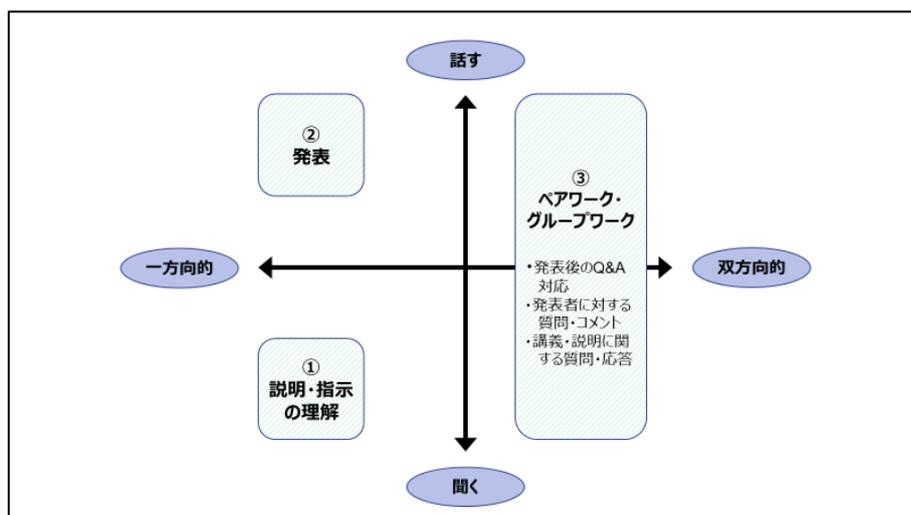


図1 留学生指導のための授業活動の類型

3.2.2. 作成の経緯

初年次の留学生が「国際共修入門」をはじめとした総合基礎教育科目の授業活動に参加するうえで求められる言語行動とその能力を表す Can-do リストを検討するうえで、まずはこれまでの教育実践から材料を収集した。具体的には、2019 年度「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート」の結果（巻末資料 1）、2020 年度に日本語科目で導入した「日本語力 自己評価シート」の評価項目（巻末資料 2）と学生の自由記述が主な材料となった。これらをベースとして作成したリストから授業内活動に関わる Can-do を抽出した。

そこで抽出された Can-do をもとに、2021 年度「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」A レベルの授業実践において授業内で活用可能なレベルにまで精緻化した。上記 2 科目は複数のユニットで構成されており、そのユニットごとにチェックリストが設けられている。チェックリストは「～できる」の能力記述文の形式となっており、項目内容は山梨学院大学に入学した留学生が日本語科目以外でも実践的に学べる力を身につけるために必要な力を想定している。

報告者は 2021 年度、上述した「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」A レベルの授業実践に携わるとともに、「国際共修入門」（講義・セミナー型）の授業も担当した。そこで、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」のチェックリストとその草案となった Can-do リストをもとに、「国際共修入門」をはじめとする総合基礎教育科目の授業活動に参加するうえで必要となる言語行動を整理し、「説明・指示の理解」「発表」「ペアワーク・グループワーク」の活動領域別に Can-do リストを作成した。

3.2.3. Can-do リスト

次ページに「授業活動別 Can-do リスト 2021」を示す。「説明・指示の理解」「発表」は、マトリックス上では「一方向的」に分類される 2 つの活動領域であるが、そこから派生する（あるいはそれに関連する）双方向的な言語行動として、派生言語行動「説明や指示を聞いて、反応することができる」「発表の聞き手として」という項目を設け、整理した。

授業活動別 Can-do リスト 2021

説明・指示の理解			
1	教師の指示や説明を理解することができる。	1	教師の指示や説明を正確に理解し、適切に行動できる。
2	講義を聞き、内容を理解することができる。	1	関心あるテーマの講義や講演を聞いて、だいたいの内容が理解できる。
		2	背景知識を持っていない、よく知らない内容の話でも、意味を推測して理解することができる。
		3	知らない言葉があっても、前後の内容から意味を補足して、内容を理解することができる。
説明・指示の理解 派生言語行動			
1	説明や指示を聞いて、反応することができる。	1	理解不能な部分を書き取り、教員やクラスメイトに確認を求めることができる。
		2	講義を聞いて、内容に関する質問に答えることができる。
		3	講義で聞いた内容について、自分の意見や感想を話すことができる。

発表			
1	他の学生の前で発表することができる。	1	発表内容を簡潔に分かりやすくまとめた、レジュメ・資料を作ることができる。
		2	聴衆にとって分かりやすいスライド資料（パワーポイント）を作成することができる。
		3	レジュメやパワーポイントなどの資料を示しながら、プレゼンテーションができる。
		4	発表で自分が伝えたいことを伝えることができる。
		5	新しく得た情報や知識を理解したうえで、その内容を他者に説明することができる。
		6	調べた情報を整理して、相手に伝えることができる。
		7	準備したスクリプトを、漢字語彙の読みかたや発音などを間違えずに正しく読み、情報伝達ができる。
		8	自信を持って堂々と発表することができる。
		9	グループワーク・ディスカッションの内容をクラス全体に伝えることができる。（代表発表ができる。）
発表 派生言語行動：発表の聞き手として			
1	発表後の質疑応答やコメントができる。	1	発表に対して質問・コメントすることができる。
		2	他者の発表に対し、適切にコメントを書くことができる。
		3	発表後の質疑応答で質問することができる。
		4	発表を聞いて、感想やコメントを相手に伝えることができる。（※伝え方に注意しながら）

ペアワーク・グループワーク			
1	積極的な態度で話し合いに参加できる。	1	話の聞きかたのマナー（相手の話をしっかり聞こうとする態度）を意識して、話を聞くことができる。 ＜例＞ 相手の目を見て聞く、体をその人のほうに向ける、あいづち・うなずき、内容確認発話 など
		2	積極的聞き手として、ディスカッションなどのコミュニケーションに参加できる。
		3	積極的にグループワークに参加し、自分の意見や考えを伝えることができる。
		4	他者に促されるまで話さないという受身の姿勢ではなく、自分から話を切り出すことができる。
		5	グループワークの際、相手の気持ちに配慮した言動をとることができる。
		6	発表会やディスカッションの際、主体的に、楽しんで関わろうとする姿勢を持って参加することができる。
		7	他者と協働して課題を遂行することができる。
2	他者の話が理解できる。	1	他者の話している内容を理解できる。
		2	他者の話で不明な点を質問したり確かめたりすることができる。
		3	相手の発表や発言を聞いて、質問することができる。
3	他者に言いたいことを伝えることができる。	1	恥ずかしがらずに話すことができる。
		2	他者に理解可能な日本語で、言いたいことを伝えることができる。
		3	自分の意思や考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
		4	知らない語彙を他の表現に置き換えて話すことができる。
		5	他者の意見を聞き、理解した上で、それに対する自分の考えを話すことができる。

3.2.4. 共有対象及び今後の展開構想

「授業活動別 Can-do リスト 2021」は、グローバルラーニングセンター（以下 GLC）教員（日本語セクションおよび国際共修セクション）と学部教員が共有の対象となる。

まず、GLC の日本語科目担当教員内に共有することで、日本語科目以外の授業で留学生たちはどのような力が求められているのか、すなわち日本語科目でどのような力を育成する必要があるのかについて、教員間で共通理解を持てるようにする。その理解のもと、各授業（特に「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語特講Ⅰ」「日本語特講Ⅱ」）での効果的な活用を促進していく。

また、GLC 国際共修科目担当教員にとっても、このリストを通して留学生が日本人学生との授業活動で抱える課題に関し、把握することが可能となる。こうした把握と共通理解のもと、まずは初年次科目である「国際共修入門」での留学生教育に活用が期待される。

さらに GLC 外でも、留学生が所属する学部の教員に対しては FD 等で共有することを想定している。本リストを用い、留学生が授業活動に参加するうえで抱える課題をより段階的かつ具体的に示すことで、留学生が抱える課題に関して理解・認識を促進していき、

学部・GLC と共同で課題解決に取り組んでいきたい。

注

1) 詳細は、トンプソン・原 (2022) を参照。

参考文献

トンプソン 美恵子・原 百年 (2022). 国際共修 (日本語) を知る 国際共修・語学教育実践, 創刊号, 57-60.

文責：齊藤眞美 (3.2.1)

河野礼実 (3.2.2, 3.2.3, 3.2.4)